給食の牛乳 200ml 1本で 1食に必要なカルシウム量の 64%を補う

会員合同研修会開催



広島県牛乳普及協会(山本武会長)は、広島県学校栄養士協議会会長で、(公社)全国学校栄養士協議会理事である呉市立川尻小学校栄養 大須賀恭子教諭を招聘し、「学校における食育―牛乳の役割から―」をテーマに会員合同研修会を開催した。

研修会の骨子は次のとおり。

①「食育」の基礎知識・豆知識

「食育」について、ここ数年でよく耳にする言葉となったが、実は明治時代からあった言葉。国は、毎月19日が「食育の日」、毎年6月が「食育月間」と定めており、今年は広島県で食育推進全国大会(6/22~23)が開催される。

②学校における食育のいま

最近では、小学校1年生の児童が給食で、初めて食べるものが多く、ゆで卵の殻がむけない(わからない)児童や、枝豆を皮ごと食べて、ずっと口をもごもごさせているので聞いてみたら「皮をいくら噛んでも軟らかくならない」といった児童もおり、果物やあんこが苦手な児童も増えている実態にある。

③給食の歴史

昭和 26 年頃からほとんどの小学校で給食(脱脂粉乳が主流)が始まり、昭和 46 年頃から牛乳(テトラパック)が始まった。昭和 55 年頃から米飯給食が始まり、現在ではこれに「地産地消」と「安全・安心」が加わっている。

④学校給食における「牛乳」の栄養的な価値

給食では、1食に必要なカロリーが定められており、これにあわせて栄養士がメニューを考えているが、給食に牛乳 200mlを 1本付けるだけで、必要なカルシウム量の 64%を補うことが出来ている。お茶やジュースなど牛乳が無い日の献立ではカルシウムをどこで摂るか非常に苦慮している。結果、シチューやヨーグルトを付けたりと、どこかで乳製品を使用している。また、米飯給食が始まった当初、「ご飯に牛乳」が合わないという意見が非常に多く出て問題となったが、それでも給食から牛乳を外すという選択肢はあり得なかった。現在ではそういった意見も少なく、学校給食における「牛乳」のウエイトはかなり高い。

5課題

学校給食における「牛乳」の課題として"量"が挙げられており、小学校1年生から中学校3年生まで、200mlブリック牛乳1本が基本となっており、中学生では足りない生徒もいるぐらいだが、小学校1年生では、多くて飲みきれない児童もいる。また、牛乳アレルギーや乳糖不耐症(牛乳を飲むとお腹が緩くなる)で牛乳が飲めない児童も多く、特に神経を使っている。

⑥まとめ

「健康に生きていくための5つの大切なこと」は、① 食べること、②眠ること、③動くこと、④笑うこと、 ⑤学ぶことであると言われ、「食べること」の大切さを 改めて実感出来る良い研修会となった。



(実際の教育現場での教材を披露する大須賀先生(写真奥))



酪政連の窓

酪農経営不安一掃に関する緊急要請

日本酪農政治連盟は、去る4月15日常任・中央合同委員会が開催され、当面する酪農諸問題に対する協議が行われ、再度4月22日には自由民主党酪政会に対して緊急要請が行われ、これに広島県酪農政治連盟の歴岡辰彦委員長は、日本酪農政治連盟の中央委員の立場でもあり、緊急要請活動にあたった。

なお、常任・中央合同委員会では、乳価値上げに向けての行動に関する話題も俎上にあがり、広島県酪農政治連盟からは、広酪の購入飼料依存型の酪農経営体の平成24年暦年収支決算をベースに、以後の配合飼料コスト等上昇分を加えた平成25年暦年収支決算の試算資料を提示され、"乳価値上げ・乳価復元"に向けての行動提言が行われた。

この提言を踏まえる中で、日本酪農政治連盟は、乳業者に対する直接の乳価交渉に直接関与できる団体では無いことを確認する中で、今後、各指定生乳生産者団体からの声を受けて支援に関する行動を展開することを確認された。

一方、為替相場の円安連鎖によって酪農家が被る影響として、配合飼料、輸入粗飼料の値上げがあるが、既に前者は配合飼料安定基金制度による酪農経営影響の緩和策が講じられているとの判断から、輸入粗飼料価格の為替影響分に対する緩和政策に関する予算要求を国に行う方向で検討が進められる状況にある。

酪農経営不安一掃に関する緊急要請

平成25年4月15日 日本酪農政治連盟 委員長 佐々木 勲

現在、わが国酪農の置かれている情勢は極めて厳しく、このまま放置することは許されない緊迫した状況にある。

その要因は、①日本外交の中の農業の位置付け(TPP交渉参加表明・日豪 EPA 交渉等)、②国策(円安対策)による配合飼料価格、輸入粗飼料価格の高騰、 ③放射能汚染地域の営農対策の遅れなど、生産意欲が湧かない現状にある。

酪農はわが国農地の利活用と地力を活性化し、他の主要農業の国内自給にも 連携する、最も重要な農業と自負している。

また、一度廃業すると復活が困難であり、安全・安心な国産生乳の供給が不 安定になり、国民生活への影響も甚大である。

政府・国会はこのような酪農の置かれている喫緊の課題を一刻も早く払拭し、 酪農家が勇気と希望を持って経営に勤しめるよう、下記事項の早急な実現を強 く要請する。

酪農経営安定政策の早期実現

- 1. 日本外交の中での確固たる酪農の位置付け
- 2. 配合飼料・輸入粗飼料価格安定対策
- 3. 経営コスト上昇時に自動的に価格に転嫁できる仕組み
- 4. 放射能汚染地域の営農対策
- 5. その他

以上

農政講演会

(4/24 三次農協会館本館 5 階「508 号会議室」)

とんでもないTPPの形を変える!

山田としお議員「農政講演会」力説

広島県農協農政協議会(村上光雄会長)は、自由民主党 参議院議員山田としお氏による「農政講演会」を開催し、 広島県酪農政治連盟・広略から10名が参加した。

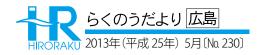
山田氏は「安倍首相がTPP参加を表明し、とんでもないことになった。こうなった今、党内で議論を重ね、何としても農産5品目(米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物)の関税を守り、TPPの形を変えさせる必要がある」として、TPP反対の熱い想いを語り、参加者らの賛同を呼びかけた。

講演終了後、山田氏は参加者全員と握手し、TPPトレーナーに身を包んだ広酪職員と記念撮影に収まった。



STOP TPPトレーナーを来た職員に囲まれ、 肩を組む山田としお氏(写真中央)

Happy Wedding





茨木栄治さん·恵美奈さん ご結婚おめでとう

二人の夢は「酪農」と「ほうれん草」

4月13日「ノートルダム広島」(広島市西区)にて茨木宏士組合員(三次市甲奴町)の長男・栄治さんと恵美奈さんがめでたく結婚式を挙げられました。

お二人は旅行会社を退職し、家業の「酪農」と「ほうれん草」栽培 を主体とする農業を営むことを決意されしターンされました。

披露宴には学生時代の同窓生や職場の同僚、地元の友人など多くの方が招かれ、祝福されました。

披露宴では、ホルスタインの着ぐるみが登場し、牛乳に関心を集める思考が盛り込まれたクイズも行われ、回答者には広酪オリジナルチーズセットが後日、贈呈されました。

宴も終了し、お見送りの際には、お二人が愛情たっぷりに育てた "朝採りほうれん草"を全員に手渡されました。

お二人は、農業を通じて人との交友を深め、地域貢献と共に様々な夢をもたれており、素敵な新郎新婦でした。

今後のお二人の末永い幸せを祈念しています。

出せるか牛の力」と題し、

| 国国家 日からから新聞を受ければ 本の大学 | 日本 | 本の大学 | 日本 | 本の大学 |

(集合写真:前列中央が坂手氏、吉原氏)

極的に取り組まれていた。 意見体験の部で最優秀者に が成れた坂手美智子氏は「家族 をに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家 とに感謝の言葉があった。家



岡山県代表 岡山県代表

(四月二十五日 倉敷アイビースクェア)山県代表二名が全国大会へ

百二十名が参加し、広酪メンバーズクラブからは井上正芳委員長が出席し西日本酪農青年女性会議主催の酪農発表大会が開催され、各地から約

経営発表の部で最優秀者に選ばれた吉原直樹氏は「挑戦」どこまで引きた。平成二十五年七月十一~十二日開催の全国大会に出場することが決定し、経営発表並びに意見体験の部ともに岡山県代表者が最優秀賞に選ばれ、た。

放牧主体で自給飼料・高泌乳牛群の取り組みに で二万㎏を超える牛を保有し、 をの内三頭が分娩し、平均能力 が一万二千㎏を超えるとあっ が一万二千㎏を超えるとあっ が一万二千㎏を超えるとあっ た。また、受胎に要した種付 たのち三頭が分娩し、平均能力 た。また、受胎に要した種付 た。すた、受胎に要した種付 た。すた、受胎に要した種付